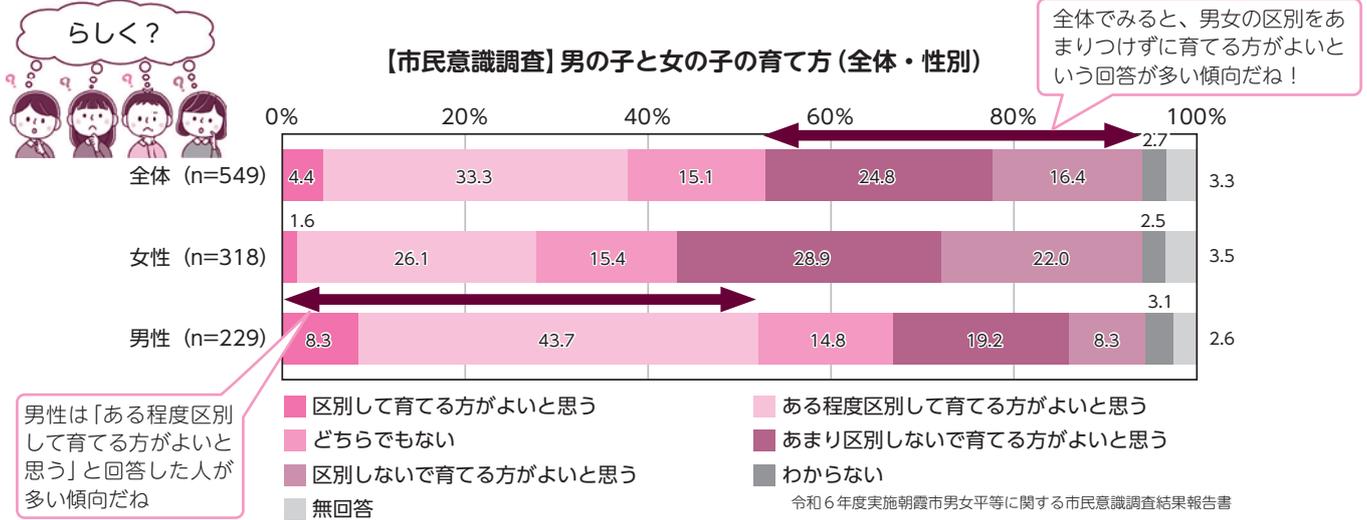


「らしさ」の押しつけ、していませんか？

問/それいゆぶらざ(女性センター) ☎463-2697

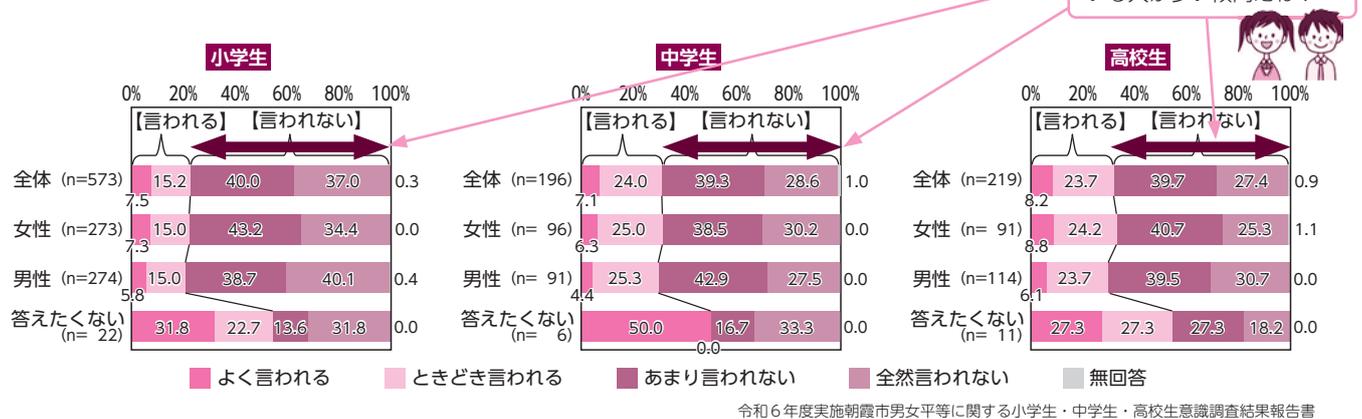
「第3次朝霞市男女平等推進行動計画」の策定のために、男女平等に関する意識調査を令和6年度に実施しました。この調査の中で、「男らしさ女らしさ」について質問をした項目があり、以下のような調査回答が得られました。調査回答は結果報告書の一部を抜粋したものです。ご回答いただいた皆さん、ご協力ありがとうございました。

質問 あなたは、家庭で子どもを育てる場合、「男らしく」「女らしく」というように、男の子と女の子を区別して育てた方がよいと思いますか。(1つ選択)



質問 あなたは大人の人に「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。(1つ選択)

【小・中・高意識調査】男らしさ・女らしさを押し付けられた経験(全体・性別)



市民意識調査は、2,000人(住民基本台帳から18歳以上の朝霞市民を無作為抽出)に調査したものです。小学生・中学生・高校生意識調査はいずれも朝霞市内にある小・中・高校に通学する児童・生徒を対象とし、小学6年生1,273人、中学3年生1,087人、高校3年生720人に調査したものです。各意識調査の結果報告書は、右のコードからご覧ください。



今回の朝霞市の調査結果では、「らしさ」の押し付けというものは徐々に減少傾向に向かっており、さらに減っていく兆しを感じます。ただ、市民意識調査の回答を男女別にみると、男女を区別して育てる方がよいという男性の意見も少なからず見受けられます。長年の日本の社会的な価値観から、男女はこうあるべきだという固定的な性別役割分担意識が残っていることがうかがえます。その「こうあるべき」という無意識の考え方によって、生きづらさを抱える人もまたいると思います。一人ひとりが意識を変え、性別にとらわれず、その人らしさに目を向けることで、生きづらさを生み出さないようにしていきましょう。

※男女平等推進情報「そよかぜ」は、公募市民の企画・編集協力員と協働して作成しています。